

【13-A】西陵連区 社会条件

【連区の概要】

西陵連区は瀬戸市の西部に位置し、尾張旭市に接する。丘陵地に開発された、戸建住宅を主体とする地域である

西陵連区



【人口および世帯数】

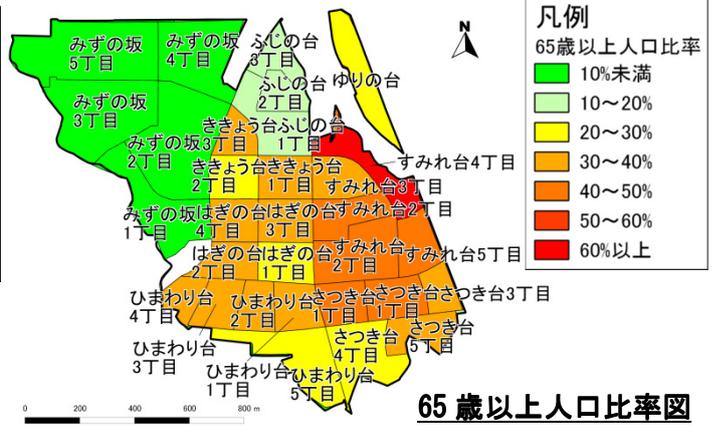
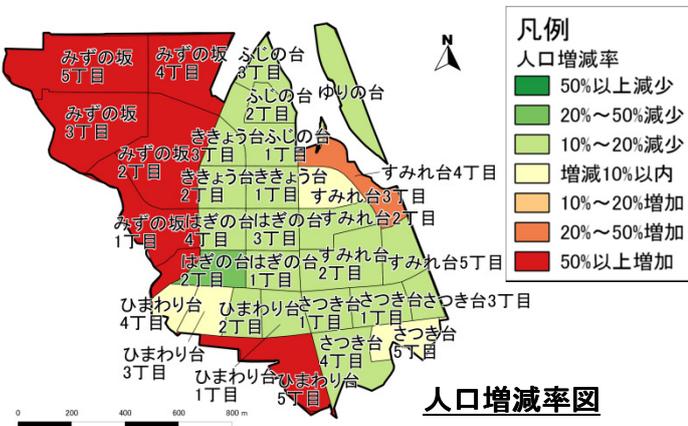
平成12年から平成22年までの10年間で、連区北西部のみずの坂で宅地造成されたことにより、西陵連区全体の人口は5,548人から8,095人と45.9%増加している。みずの坂ならびにひまわり台5丁目およびすみれ台4丁目では人口が増加傾向であるものの、ほぼ連区全域で減少傾向である。また世帯数は1,732世帯から2,720世帯と57.0%増加している。

西陵連区全体の65歳以上の人口比率は23.0%と、瀬戸市全体の23.3%と同程度であるが、連区内で偏りが見られる。連区北西部のみずの坂は65歳以上人口比率が10%未満と低い一方、その他の地域では、連区北側のふじの台1丁目～3丁目を除き、65歳以上人口比率が高く、高齢化が進展している。

階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	1,337人	16.5%
15～64歳	4,890人	60.5%
65歳以上	1,857人	23.0%
区分不明	11人	-
連区内人口	8,095人	

※平成22年国勢調査結果より



【建物】

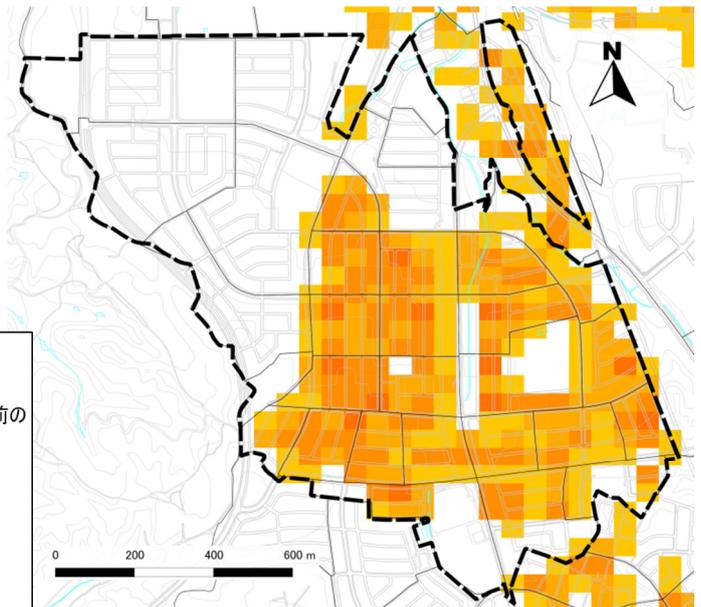
西陵連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物70.9%、非木造建物29.1%である。新耐震基準以前（昭和55年以前）の木造建物は全建物の32.3%であり、瀬戸市全体の34.3%に比べて若干低い。連区北西部（みずの坂1～5丁目）は、近年宅地造成された地区であるため、新耐震基準以前の建物は存在しない。

木造・非木造構成

建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	42棟 1.5%
	S36～55年	879棟 30.8%
	S56年以降	1,104棟 38.6%
計	2,025棟	70.9%
非木造	S45年以前	109棟 3.8%
	S46～55年	195棟 6.8%
	S56年以降	529棟 18.5%
計	833棟	29.1%
連区内棟数	2,858棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計

凡例
50mメッシュ内の
新耐震基準以前の
木造建物棟数
1～2棟
3～4棟
5～7棟
8～10棟
11～18棟



【13-B】西陵連区 水害および土砂災害

- 連区北東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。
- 連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

【水害および土砂災害箇所】

西陵連区では、浸水想定区域の設定はなく、近年大規模な水害は発生していない。

また、連区北東部（ゆりの台、すみれ台4丁目）に土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）に指定されている箇所がある。

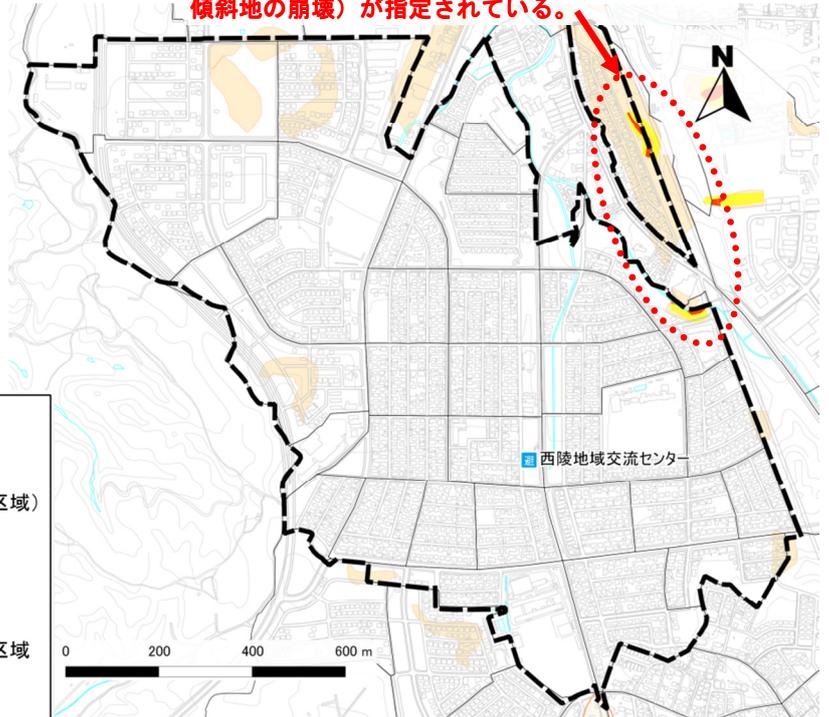
土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	1棟
特別警戒区域	1棟
警戒区域	0棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
 - 急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
 - 土石流（特別警戒区域）
 - 急傾斜地の崩壊（警戒区域）
 - 土石流（警戒区域）
 - 土石流危険渓流
 - 土石流危険渓流による危険区域
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 地すべり危険箇所
 - 既往水害(東海豪雨)

ゆりの台とすみれ台4丁目には、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）が指定されている。



水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

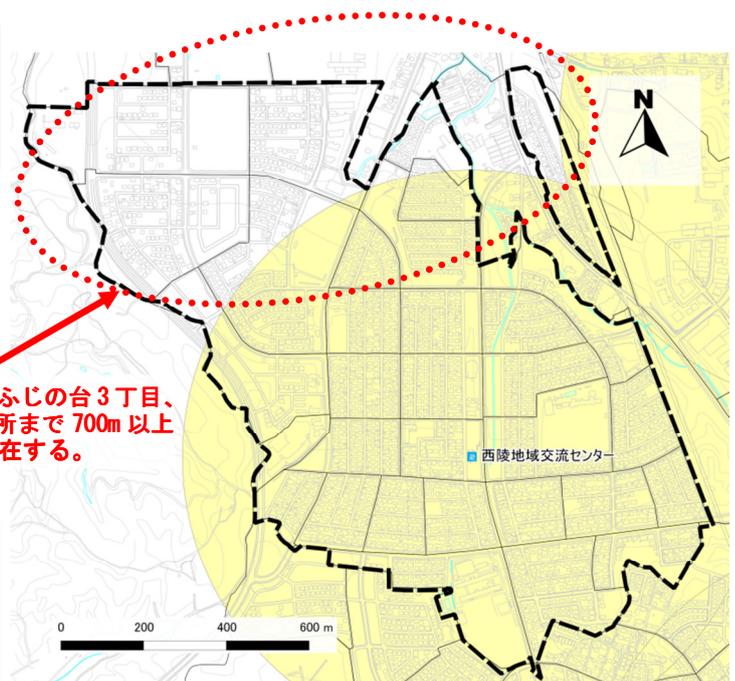
西陵連区では西陵地域交流センターが風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。多くの地域にて700m以内に避難所が存在するが、連区北部（みずの坂1～5丁目、ふじの台3丁目、ゆりの台）では、風水害時の避難所までの距離が700m以上離れている地域が存在する。これらの地域では、風水害時の避難所までの距離が離れていることを住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
西陵地域交流センター	95人	190人	305人
水野公民館【水野連区】	75人	150人	245人

※地域防災計画より

みずの坂1～5丁目、ふじの台3丁目、ゆりの台では、避難所まで700m以上離れている地域が存在する。



凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【13-C】西陵連区 地震災害

- 連区全域にて耐震性の低い建物が倒壊する割合が低い。
- 連区全域にて近隣に地震避難場所が存在する。

【建物被害および液状化】

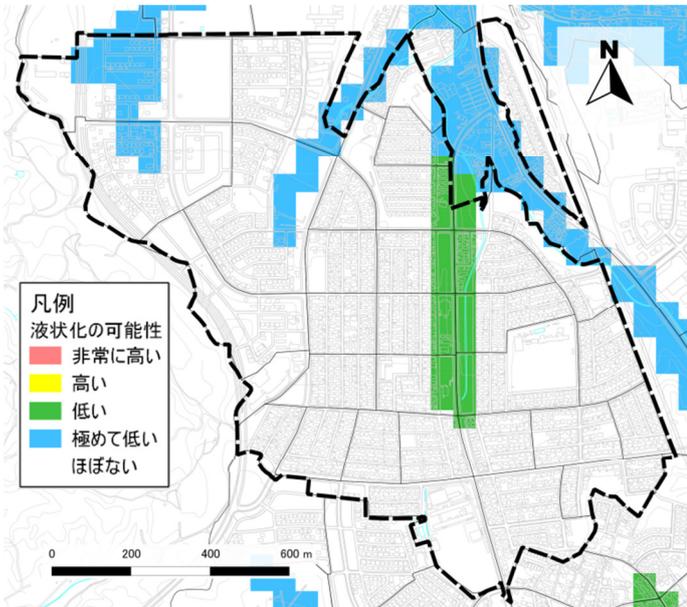
(1) 建物被害について

西陵連区ではほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する割合が低い。

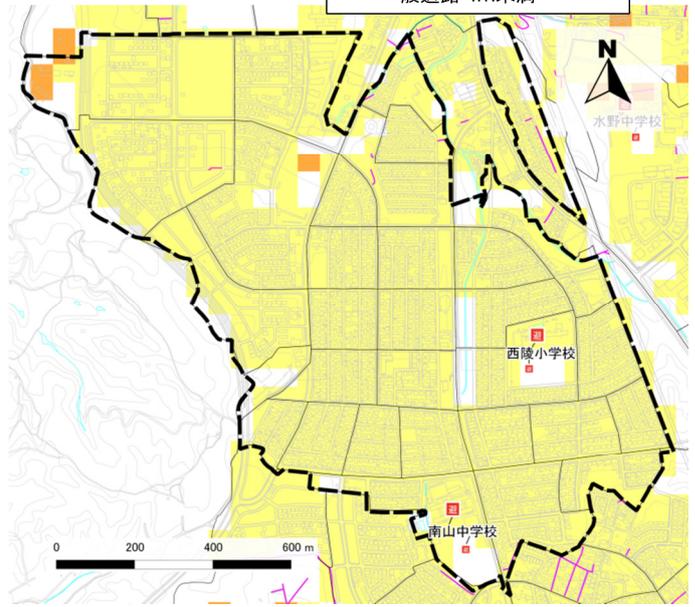
(2) 液状化について

水野川の支流で形成された谷底低地に液状化の可能性がある。

- 凡例
- 耐震性の低い建物が倒壊する割合
- 高い
 - やや高い
 - 低い
 - ほぼない
- 道路情報
- 一般道路 4m未満



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

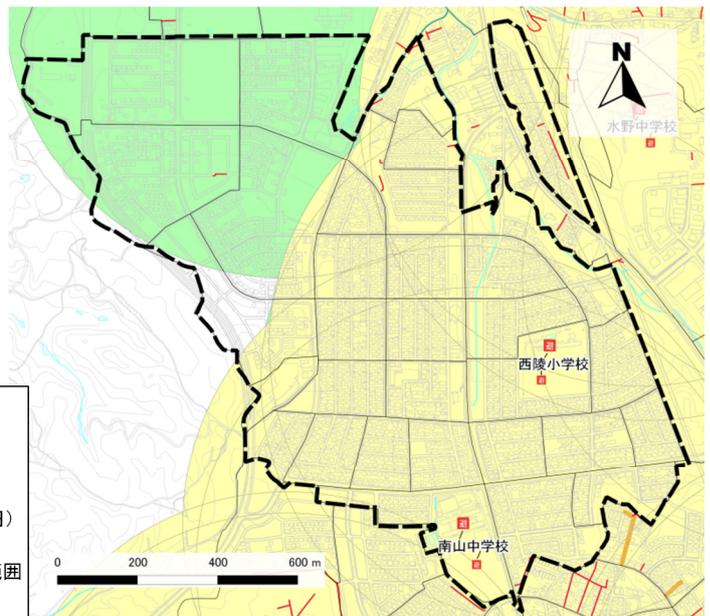
西陵連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として西陵小学校、南山中学校の2ヶ所が指定されている。近隣連区の避難所も含めて、ほぼ全域にて700m以内に地震時の避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
西陵小学校(運動場)	西陵小学校	95人	190人	305人
南山中学校(運動場)	南山中学校	280人	565人	915人
県立瀬戸北総合高等学校(運動場)【水野連区】	水野中学校【水野連区】	270人	540人	880人

※地域防災計画より

- 凡例
- 避難所・緊急避難場所(地震)
- 避難所
 - 緊急避難場所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲
 - 緊急避難場所から700mの範囲
- 道路情報
- 道路傾斜 10度以上
 - 道路幅員 4m未満



地震時の避難所・緊急避難所の対象範囲図